千思万考

「低炭素社会の実現へ」
パーティクルボードはCO_2を固定

四国経済連合会常任理事（大倉工業株式会社社長）　鴻池　正幸

近代の経済発展は，炭酸ガスの大量排出を伴うとともに，他の要因と複合して地球温暖化や資源枯渇や気候変動などをもたらし，このままでは，持続的な経済発展が危惧される状況となってきました。

洞爺湖サミットでは，地球温暖化対策等「環境の時代」への対応が主要テーマになり，今やＧ８はもちろん，世界の国々にとって様々な思惑はあっても，決して避けて通れない問題になったと言うことであろうと思います。

我が社の事業を客観的に振り返りますと，包装用ポリエチレンやポリプロピレンフィルムは，利便性が高く経済性もあったために大量に生産され消費されてきました。これは安くて無尽蔵に近い石化原料と加工プロセスでの電力消費が前提でした。

一方，南洋材合板を出発点とした建材事業はインドネシアやマレーシアのラワン原木の大量伐採つまり熱帯雨林という環境保全に欠かせない自然の蚕食を前提としておりました。

経済成長と生活の利便性に貢献するとの過去の合理性や合目的性が，「環境の時代」に合わなくなりつつあります。

しかし，私どもは今後も，我が社の事業や製品が国民の利便や社会の発展に役立つことを切望しており，各事業領域で自然と共生出来る様々な環境対応を模索しております。

プラスチック加工事業においては原料消費をいかに減少させるか，あるいはリサイクル原料植物由来原料等をどう旨く使うかに知恵を絞っております。

特筆すべきは建材事業のパーティクルボードです。もともと我が社では合板の製造過程で排出される木材芯部やロスをチップにし，接着剤を混ぜてパーティクルボードを製造しており，資源を有効利用するとの考え方が根底にありました。そして現状は，木造住宅解体時に排出される廃木材や家具類，そして建設工事で使い古されたコンクリートパネル等がチップの主要原料となりました。産業廃棄物として燃焼や埋め立て処理されるものを再利用するという意味でマテリアルリサイクル，つまり省資源そのものです。しかし，これだけではありません。パーティクルボードは炭酸ガスを固定した状態を持続します。

木材を発電燃料に再利用するのも一つの流れですが，炭酸ガスを放出します。燃やすのとボードにするのとでは環境負荷が違うのです。しかし現実には，原料チップが発電用に取られ，ボード向けが不足気味です。我が国のパーティクルボードは産業規模も小さく，ヨーロッパに比べて利用量が少なく，環境対応製品としての世間の認知度は高くありません。そこで私どもは，高品質ボード設備の増強を成功させると共に，日本繊維板工業会と力を合わせて，ユーザーはもちろん政府を始めとする各方面に「ボードは環境対応製品そのもの」であることをアピールしたいと考えております。

全人類的なウェルフェアーの危機が現実のものとなってきた21世紀，環境問題は待ったなしです。私どものささやかなトライに対し，各界のご理解とご支援を賜りたいと存じます。